

# 所感

## 会長に就任するにあたって

会長 川口博史



この度幹事会で選任され、神奈川県皮膚科医学会の第8代会長になることになりました。10年前、鎌田英明会長の指名で幹事長になりましたが、10年間も務められるとは正直思っていませんでした。これもすべて会長以下皆様のご協力のおかげで、ここに深謝致します。私は人と話すのが苦手です（皆に笑われますが本当です！）、与えられた仕事をただ行ってきただけですが、指導して下さった鎌田会長から次はよろしく！といわれたら、やはり私がやらなければならないのかと腹をくくりました。私は1984年に市大を卒業後、先輩たちに誘われるまま、神皮の例会に参加して（させられて）いました。その後、第116回例会の担当幹事、編集委員長、副幹事長など色々役職を与えられ足抜けできなくなりました。そして鎌田会長の下で幹事長を務め今回会長に。加藤安彦先生がお元気だった頃、懇親会の場でグラスを片手に、「川口君、これからの医会を頼むよ！」と肩を叩かれたことが何度ありました。その時は私が会長になるなんて思ってもいませんでしたが、諸先輩方が育ててきた医会の歴史に泥を塗らないよう努力しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私が幹事長だったこの10年間に、法人会員の減少、例会をメーカーと共催する上での制約事項など、医会を取り巻く環境は変わりました。以前のように担当幹事の自由なテーマで例会を開くことは簡単ではありませんが、関係各所と協議し工夫して担当幹事がやりたいテーマ、会員の役に立つ例会を企画していきますので是非ご参加ください。また同僚、後輩、時に先輩を誘って会に参加し、そして入会してくれるよう医会の紹介をお願いします。

医会は県内各地から選出された幹事の先生たちの活動で成り立っています。皆さん診療の合間に、各種委員会の企画運営を手伝ってくれています。この

ように医会は、幹事の先生たちのボランティアで成立していることをこの場を借りて感謝するとともに、幹事に選出された際は是非無償の愛を提供してください（笑）。さて今回その委員会を再編成しようと思います。イベント委員会と皮膚の健康委員会を統合し市民に情報発信する会に、また学術委員会と企画委員会を統合して皮膚科医に情報発信する会に、在宅医療委員会はコメディカルへの情報発信源としてすでに活動しています。広報・編集委員会は従来通り神皮の編集、健保委員会は保険診療に関する情報発信、JDCは女医目線での情報交換、とします。今後ニーズがあれば再検討します。

もう一つがデジタル化です。この2年、COVID-19感染のため対面での会が開けませんでした。Web会議、Web講演会を活用し、自宅で会議、講演を視聴できるようになりました。常任幹事会や委員会もZoomで行いましたが、これが意外に便利でした。会場に行く時間と手間が不要ですし、ホストは録画もできます。私もZoomのアカウントを取りましたが、契約更新する予定です。今後会員のメールアドレスの管理が進めば、ML等を拡充させ、情報伝達のデジタル化を進めようと思います。デジタル部門の作業は、今まで浅井俊弥副会長に任せきりでしたが、医会として維持管理できるよう今後は他の執行部も関わられるよう体制を整えたいと思います。

神奈川県皮膚科医学会は、日々の診療に役立つ情報を提供し、そして大学の垣根なく自由な意見を発せる会です。他県の医会からも一目置かれていると伝え聞きます。歴代の会長達と比べると全く頼りない会長ですが、頑張って医会を運営していきますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

幹事長日誌でやっていた番外編、載せてもらえるかなあ、魚か鉄分か……。

# ありがとうございました

顧問 **鎌田英明**



毎日トップで流されるコロナ関連のニュースに辟易しながらも徐々に収束に向かう兆しが見え始め、これでやっとコロナ前の日常に戻っていけるのかと春に向けて少し明るい気持ちになっていたところに、今度はロシアがウクライナに軍事侵攻したという信じがたいニュースが飛び込んできた。今年に入ってからか、バイデン米大統領がロシアがウクライナに侵攻しそうだと何度も会見で発言していたのだが、まさかこの21世紀の世の中に衆目の集まる中、公然と戦争を仕掛ける馬鹿な国はないだろうと高をくくっていたのだが、なんとまだそういう国があったのだと啞然、呆然であった。しかも、その侵攻の大義名分の陰に、ソ連邦を再興したいという、プーチンの個人的なアナクロニズムに満ちた本音が丸見えで、世界中が反対を叫ぼうが彼の耳には届かない。一方的に攻め込まれ、国中をめちゃくちゃにされたウクライナにしてみれば何が停戦協定だという気持ちであろう。ロシアへの経済制裁が我々の生活にも跳ね返ってくると早くも専門家から予測が出ており、戦争の行く末もコロナと同じように先行きが不透明で、新たな頭痛の種が生まれてしまったわけだ。

こんな社会情勢の中ではあるが、コロナウイルスとの共生にも何とか目途が立ってきたことでもあり、この辺りで神皮会長の職を辞することをお許しいただきたい。思えば10年前、栗原前会長に突然バトンを渡されて始まった会長職であった。神奈川県出身でもなく、大学も神奈川ではない自分が本当にやっていけるのかと最初は不安な気持ちであった。しかし

それは杞憂に終わった。その大きな理由は、神奈川県皮膚科医会の真髓である出身大学の垣根を作らないという伝統が代々根づいており、常任幹事会の優秀なスタッフ達がまとまりを持って力を発揮してくれたからに他ならない。感謝の気持ちを改めてスタッフの先生方に贈りたい。また、頼りない会長を優しく見守ってくださった会員の先生方にも感謝の気持ちをお伝えしたい。

この2年間はコロナウイルスに翻弄されて十分な活動ができなかったが、平時ではない分、色々な局面での判断、決断を迫られた2年間であった。いずれの場面でも大きな判断ミスはなく、それだけは良かったと思っている。その上、怪我の功名ということか、取り巻く環境の変化に苦慮していた神皮に、Webを活用した新しい活動の手がかりが見つかったことも幸いだったと思っている。本来私が仰せつかった大きな課題は、神皮50周年記念祝賀会を盛会裏に執り行うということであった。言うまでもないが、これもスタッフの皆で取り組んでいただき、私の想像を遙かに超える大成功の会としていただいた。思い残すことはない。

「潮時」を長らく引き時と理解していて、辞する時に用いる文言と思っていたが、潮が満ちて来た時にも使うと物の本に教わった。考えようによっては、私の引き時であり、次代を担っていただく先生方にとっては潮が満ちて来た時ということになるだろう。神奈川県皮膚科医会の更なる発展を心から祈っている。